

- 12 エレミヤは、エルサレムから出て行き、ベニヤミンの地に行った。民の間で割り当ての地を受け取るためであった。
- 13 彼がベニヤミンの門に来たとき、そこにハナンヤの子シェレムヤの子の、イルイヤという名の当直の者がいて、「あなたはカルデア人のところへ落ちのびるのか」と言い、預言者エレミヤを捕らえた。
- 14 エレミヤは、「違う。私はカルデア人のところに落ちのびるのではない」と言ったが、イルイヤは聞かず、エレミヤを捕らえて、首長たちのところに連れて行った。
- 15 首長たちはエレミヤに向かって激しく怒り、彼を打ちたたき、こうして書記ヨナタンの家の牢屋に入れた。そこが獄屋になっていたからである。
- 16 エレミヤは丸天井の地下牢に入れられ、長い間そこにいた。
- 17 ゼデキヤ王は人を遣わして、彼を召し寄せた。王は自分の家に彼にひそかに尋ねて言った。「主から、おことばはあったか。」エレミヤは「ありました」と言った。そして「あなたはバビロンの王の手に渡されます」と言った。
- 18 エレミヤはゼデキヤ王に言った。「あなたや、あなたの家来たちや、この民に対して、私にどんな罪があったというので、私を獄屋に入れたのですか。」
- 19 あなたがたに対して『バビロンの王は、あなたがたとこの地を攻めに来ない』と言って預言していた、あなたがたの預言者たちは、どこにいますか。
- 20 今、わが主君、王よ、どうか聞いてください。どうか、私の願いを御前に受け入れ、私を書記ヨナタンの家へ帰らせないでください。私がそこで死ぬことがないようにしてください。」
- 21 ゼデキヤ王は命じて、エレミヤを監視の庭に入れさせ、都からすべてのパンが絶えるまで、パン屋街から毎日パン一つを彼に与えさせた。こうして、エレミヤは監視の庭にとどまっていた。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用



「エレミヤの受難とゼデキヤの試練」

| エレミヤ書講解-73 エレミヤ書37:1~21 他 小野寺 望 牧師

【エレミヤ書 37章】

- 1 ヨシヤの子ゼデキヤは、エホヤキムの子エコンヤに代わって王となった。バビロンの王ネブカドネツアルが彼をユダの地の王にしたのである。
- 2 彼も、その家来たちも、民衆も、預言者エレミヤによって語られた【主】のことばに聞き従わなかった。
- 3 ゼデキヤ王は、シェレムヤの子ユカルと、マアセヤの子、祭司ゼパニヤを預言者エレミヤのもとに遣わして言った。「どうか、私たちのために、私たちの神、【主】に祈ってください。」
- 4 エレミヤは民のうちに出入りして、まだ獄屋に入れられてはいなかった。
- 5 また、ちょうど、ファラオの軍勢がエジプトから出て来たので、エルサレムを包囲中のカルデア人は、そのうわさを聞いて、エルサレムから引き揚げたときであった。
- 6 そのとき、預言者エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 7 「イスラエルの神、【主】はこう言われる。わたしに尋ねるために、あなたがたをわたしのもとに遣わしたユダの王にこう言え。『見よ。あなたがたを助けに出て来たファラオの軍勢は、彼らの地エジプトへ帰り、
- 8 カルデア人が引き返して来て、この都を攻め取り、これを火で焼く。
- 9 【主】はこう言われる。あなたがたは、カルデア人は必ず私たちのところから去る、と言って、自らを欺くな。彼らが去ることはないからだ。
- 10 たとえ、あなたがたが、あなたがたを攻めるカルデアの全軍勢を討ち、そのうちに重傷を負った兵士たちだけが残ったとしても、彼らはそれぞれ、その天幕で立ち上がり、この都を火で焼くようになる。』」
- 11 カルデアの軍勢がファラオの軍勢のゆえにエルサレムから引き揚げたとき、

◆ はじめに ～神の真理に立つ信仰

1.時系列について

(1) 36章と37章の間には、18年間の年月が経過している。

①詳細は、34：1～7、37：1～10、37：11～21、38章

(2) 歴史的文脈

①前597年、第2回バビロン捕囚が起こり、エホヤキン王（エコヌヤ）がバビロンに連れ去られる。

②バビロンの王ネブカドレザルはエホヤキンのおじマヌヤをゼデキヤに改名させ、傀儡王としてユダの王に就かせる。

③正統的な王位継承者ではない。

◆ メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 神の前に真心で ～内側をご覧になる神に

*このメッセージは、内面をご覧になる神に仕えることを学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I 祈りの要請をするゼデキヤ（1～10節）

1.バビロンの一時的撤退

(1) 状況：①エルサレムを包囲していたネブカドレザルの軍は、エジプトが動き出したのを察知し、一時的に包囲を解いて退却した。

*ゼデキヤは密かにエジプトに援軍を派遣するように要請していた。

(2) 評価：①バビロン軍が退却したことで、ユダ王国にはかすかな希望が見え始めていた。

②ゼデキヤはエレミヤに遣いを派遣し、主に祈るように依頼した。

*それは本当の悔い改めかどうか？

2.主のことばが下る

(1) 神の視点：①カルデア人（バビロン）が撤退したことで安心してはならない。

②やがてエジプトは自分の国に帰ってゆく。

③後にカルデア人（バビロン）は引き返してきて、この町を征服し、火で焼く。

④これらはすでに決まった計画である。

(2) ゼデキヤの祈りが聞き入れられなかった理由

①余りに遅すぎる悔い改めであった。回帰不能点を超えていた。

②悔い改めは真心から出たものではなく、その当時の政治状況がそうさせた。

*つまり悔い改めの動機が間違っていた。

II エレミヤの逮捕（11～16節）

1.濡れ衣を着せられる

2

2021.11.21

(1) 時期：カルデアの軍勢が一時的に退却した頃（エジプトの援軍による）

(2) 状況：①エルサレムに籠城していた民は、再び町の外に出ることができるようになった。

②エレミヤもまた、エルサレムの外に出ようとしていた。

*目的はベニヤミンの地に行き、民の間で割り当ての地を決めるため。

詳細については不明である。故郷アナトテはベニヤミンの地にある。

(3) エレミヤがベニヤミンの門で逮捕される

（北にある門。この門を出るとベニヤミンへの道に出る）

①イルイヤという当直の者がエレミヤを逮捕する。

*その理由は、バビロンへの逃亡を企てているというもの

②エレミヤはそれを否定するが、受け入れられなかった。

2.時代に伴う霊的変化

①かつてはエレミヤに同情的な首長たちもいたが、そのほとんどがバビロンに連れ去られた。

②この時いた宮廷の高官（首長）たちは、質の悪い者たちであった。

*彼らはエレミヤについて、正当な裁判を開くことなく、王への報告も省略し、肉体的に苦しめた上で投獄する。

III ゼデキヤの呼び出し（17～21節）

1.「神のことばはあったか」

(1) エレミヤが入れられた牢獄は、水溜用の穴で、「丸天井の地下牢」と呼ばれる。

(2) 投獄期間：少なくとも数週間から数か月は投獄された。

(3) ゼデキヤ王から呼び出しがかかった。

(4) 対照的な対面

*肉体的にはやつれたエレミヤ

*様子はおどおどしながら「主からことばがあったか」尋ねる
威厳をもって答える「あなたはバビロンの王の手に渡される」

2.エレミヤの開放

(1) 王に願い、牢獄から解放される

①次に入れられたのは、監視の庭 ここは彼にとって最適な場所であった、殺される危険がなく、ある程度の自由も許された。

◆まとめ：神の前に真心で ～内側をご覧になる神に

1.心からの悔い改め：福音を受け入れ歩み寄る（神の愛への応答）

2.心からの喜びに満ちた奉仕：奉仕に対する正しい動機を保つ

①自分の誉れではなく、神様が喜ばれることが、信者にとってのあるべき喜び

②Ⅱコリ13：8 偽ることはできないというパウロの告白

3

2021.11.21